

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2779300413
法人名	有限会社 ケアステーション大空
事業所名	グループホーム あおぞら
所在地	大阪狭山市山本東4-1 (電話) 072-368-2301
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関 あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成20年2月14日

【情報提供票より】 (平成19年12月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年11月01日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	12 人
	常勤 6 人, 非常勤 12人, 常勤換算12人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1・2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(250,000円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(2月10日現在)

利用者人数	11 名	男性	3 名	女性	8 名
要介護1		要介護2		3名	
要介護3	3名	要介護4		3名	
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 85.5 歳	最低	78 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	南堺病院 竹村歯科 狭山病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームあおぞらは南海高野線北野田駅から徒歩20分の国道310号線沿いであり、寮を改装したグループホームである。玄関には季節の花が生けられ、ガラス窓から暖かな陽射しが差し込み落ち着いた明るい雰囲気となっている。食堂兼居間はそう広くないが、壁や家具を利用して利用者が互いの視線を気にせず一人になって寛げることのできる空間となっている。壁には利用者の米寿を祝って花嫁衣裳や留袖が飾られ、華やいだ雰囲気を醸し出している。管理者は、利用者に人生の先輩として尊敬の念を持って接し、その人らしさを支えるための介護を目指している。利用者と家族との関係にも配慮し、家族の気付かない利用者の一面を伝えるなど、関係修復にも心を配っている。職員も利用者のペースに合わせ、ゆったりとした時間を持つことを心掛けている。ネコを飼育し、家庭的な和やかな雰囲気である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題である介護計画書は記入し易いように改善している。しかし、継続的なモニタリングやケアカンファレンスの開催などは未改善である。生活記録・業務日誌等の記録も利用者の状況を読み取り易いものにするため、改善の検討中である。職員の研修も十分でない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は職員に対して評価結果の報告を行っているが、外部評価を受審するにあたり、全職員による自己評価の取り組みを行っていない。職員も評価の意義を理解するに至っていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員・民生委員・家族代表・自治会長などが参加して開催しており、会議録を残している。会議では情報提供や評価結果の報告などを行っている。回数を重ねるにつれ地域との係わりの方向性が見えてきつつある。民生委員などにグループホームのイベントの参加の呼びかけをお願いしている。また家族の声を大切にすることを心がけ、家族全員に運営推進会議への参加を呼びかけている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情受け付けBOXを設置しており、家族などからの意見などの把握に努めているが、苦情が出されることは少ない。出来るだけ家族と係わりを持ち、直接聞き取れるような雰囲気作りを心掛けている。また、運営推進会議への参加お誘いの手紙と一緒に全家族にグループホームのサービス等に関するアンケートの依頼をしている。市からの介護相談員の派遣を受け入れている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	グループホーム主催の餅まきに地域の住民が参加したり、幼稚園児のクリスマス会、中学生の職場体験、小学生の慰問、ボランティアによるエレクトーン演奏、地域の老人会長夫妻によるボランティア活動など様々な参加がある。グループホームから利用者が盆踊り(浴衣で)地藏盆など地域の行事に参加している。運営推進会議や地域の同業者との集まりを生かした地域との連携が期待される。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ケア理念として、利用者の立場に立った明るい家庭的な生活の提供、を掲げている。運営方針には、利用者が地域社会の中で安心して生活出来るように支援する、と謳っている。職員のケアに携わる思いは、利用者一人ひとりの個性を大切に、のんびりと落ち着いた生活を支援していくことを約束しますといった分かり易い言葉で宣誓として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や台所など常に目に付くところに理念を掲げている。管理者と職員は、理念を共有し、日々の実践が理念に基づいたものになるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホーム主催の餅まきには地域の住民の方の参加、地域からは幼稚園児のクリスマス会、中学生の職場体験、小学生の慰問、エレクトーン演奏、地域の老人会長夫妻によるボランティア活動など様々な参加がある。利用者は盆踊り（浴衣で）や地藏盆など地域の催しに参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員に評価結果の報告を行っているが、外部評価を受審するに当たり自己評価を全職員で取り組むまでには至っていない。職員は評価の目的や活用方法を十分理解しているとはいえない。	○	自己評価を実施するに当たり、全職員が評価の目的や活用方法を十分理解したうえで、職員の意見を集約して自己評価を行い、サービスの質の向上に取り組んでいくことが望まれる。さらに、評価で見出された課題について期間を決めて改善に取り組む姿勢が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員・民生委員・家族代表・自治会長などが参加して開催しており、会議録を残している。会議では情報提供や評価結果の報告など行っている。家族の声を大切にすることを心がけ、家族に参加を呼びかけている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	イベントの開催時には市町村担当者に声掛けし参加を促している。市町村担当者とは直面している運営やサービスの課題について話し合う機会を持っている。年2回市からの介護相談員の訪問がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者は利用者に関する職員の気付きを大切にしたいとの思いを持ち、家族が訪問し易い雰囲気作りを心掛けている。家族の来訪時にはお茶を出すなど寛げるよう心掛け、利用者の様子を伝えている。毎月の金銭管理報告は家族にしており、利用者には何か変化が見られた時やイベント時の行事写真を送る時などに暮らしぶりや健康状態などを伝えている。以前発行していたあおぞら新聞の継続発行がされていない。	○	利用者に何か変化が見られた時やイベント開催時のみでなく、定期的にホーム便りなどを通して利用者の暮らしぶりや様子を伝えていくことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受けBOXを設置しているが、家族などから苦情が出ることは少ない。出来るだけ家族とかかわりを持ち、意見などを直接聞き取れるような雰囲気作りを心掛けている。また、運営推進会議への参加のお誘いの手紙と一緒に全家族にアンケートの依頼をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年ユニット間で職員の入れ替えを実施したが、現在はほぼ固定している。管理者ならびに所長は職員の異動や離職を必要最小限に抑えるように対処している。また、職員間の人間関係や雰囲気が利用者に影響を及ぼさないように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の年間研修計画はなく、内部研修も実施できていない。職員の力量に応じて段階的な研修の機会を支援し、介護に関するスキルアップを図ることが求められる。認知症の理解に関しても、出来るだけ多くの職員が内部・外部での研修に参加し、職員間で情報を共有し、現実を理想に近づける努力が望まれる。	○	グループホームとして職員の年間研修計画を作成し、出来るだけ多くの職員がその力量に応じて段階的に研修を受ける体制を作り、研修内容を全職員にフィードバックし、より質の高いサービスの実現が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者が集まり、今年度からグループホームの勉強会を開催することになり、参加する予定である。施設部会でも同業者との交流を持ち、協同で認知症に関する「ハートフェアフェスタ」を行うなど、地域全体のサービス水準の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は突然の入所となるケースが多いが、時間的に余裕がある場合は管理者とリーダーで面談を行い、家族と十分に話し合い、家族が職員と一緒に利用者を支えていけるように心掛けている。ショートステイの利用で、段階的にサービスを利用できるように支援していくといったケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者と様々な場面に係わる中で、利用者が永年培ってきた生活の智慧に教えられることが多く驚かされる。また、普段の係わりの中で利用者に昔どうしていたか尋ねる機会を作り、なかには先生になって貰うなどの場面作りをするなど得意分野で力を発揮してもらっている		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話に耳を傾けると共に、意思疎通の難しい利用者に対してもその言葉に惑わされることなく気持ちをしっかり掴むように心掛け、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを実施し利用者の状況を記録している。生活目標プランを立て援助すべき項目を検討しているが、利用者や家族の希望等の記録が少なく、関係者が話し合った結果を基に作成されたことが見えてこない。	○	問題点の提示、評価、計画の見直しが分かりやすく読み取れる書式の検討を期待したい。関係者が話し合った結果を基に個別具体的な介護計画を作成することが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しが十分に行っているとはいえず、見直しを反映した計画書も作成していない。	○	介護計画の定期的な見直しを行い、その結果を反映した計画書の作成が望まれる。期間にとらわれず、利用者に状態の変化がみられた場合には本人、家族、必要な関係者と話し合いを行い、現状に即した計画を作成することが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、月2回の通院介助を行っている。理美容院や喫茶店、季節の変わり目には衣服や下着の買い物などの外出支援を行っている。利用者が安心してサービスを受けられるように、ショートステイも受け入れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族などの希望を大切にし、今までのかかりつけ医師や希望する医療機関で適切な医療を受けられるように配慮している。週1回内科と精神科の医師による訪問診療がある。薬などの変更があった場合はその都度確認し、職員の間で情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族などには入所時に終末期のあり方について話をしている。家族はグループホームでの看取りを望むことも多いが、重度化した場合や終末期における事業者の対応方針が十分検討できていない。現状では24時間体制の医療機関との連携ができておらず、家族全員との話し合いまでに至っていない。	○	事業所として終末期の対応方針を検討し、早期から具体的に利用者や家族、関係医療機関・ケア関係者と繰り返し話し合いを持つことが望まれる
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員の入職時には人権やプライバシー保護に関する説明を行なっている。利用者からは人生の先輩として一人の人として生き方を教えられることも多く、職員は尊敬の念を持って話しかけるように心がけている。しかし、そのことで親しみを無くさぬように言葉遣いにも配慮している。記録や個人情報は事務所で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護スケジュール表に一日の流れを記入しているが、それにとらわれることなく、利用者が自分のペースで生活できるように支援している。起床時間なども一人ひとりで幅を持たせ、利用者の行動を観察し、その中で気づきを大切に支援するように心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者に委託しており、献立は設定されているが、その時々に応じて、季節感のある献立（節分の巻き寿司など）に変更している。調理時には利用者から今までの経験を活かしたアドバイスや味見するなどをして頂いている。食事時の座席配置もトラブル無く楽しく食べることが出来るように配慮している。月1回の昼食会のメニューは利用者の希望を取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は一般的な家庭のお風呂である。日曜日を除き毎日利用でき、利用者の入浴時間は週2回午後1時30分～3時の間となっている。希望すれば毎日でも入浴できるが、今のところ希望者はほとんどいない。入浴嫌いの利用者には機嫌の良い時に声を掛けたり、きっかけ作りなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるように支援している。裁縫が得意な利用者には針仕事、音楽が好きな方にはオルガン演奏、さらにカレンダー作りといった楽しみごとの支援を行っている。ひな祭りには着物姿で笑顔の写真を撮ったり、誕生会では夫々の利用者にプレゼントを手渡している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近くの駄菓子屋に出かけたり、車でスーパーなどに買い物に出ているが、職員体制上利用者一人ひとりの希望に沿って戸外に出かけることは難しい。近くの戎さんに初詣を兼ねて出かけたり、職員全員の協力を得て天王寺動物園に出かけたりしている。	○	利用者の希望に沿って、散歩など日常的な外出の支援が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は施錠していない。また、土間の内側のドアにセンサーを付けて、人の出入りがあればチャイムが鳴るようになっており、職員は出入りの際に必ず「入ります」の声掛けを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回避難訓練を行っている。飲料水や食材などの備蓄は適切な保管場所がないため行っていない。非常時災害対応マニュアルも作成していない。	○	避難場所の確認を含め実際の災害発生時を想定した具体的な避難策についての検討が求められる。運営推進会議を活用し、地域の協力が得られるように働きかけていくことが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者から購入しており、一日の摂取カロリー量は把握している。食事摂取量、水分摂取量は記録しており、水分摂取量は一日1000CCを目安にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寮を改装したグループホームであるが、玄関は一般の家庭と変わらない雰囲気である。共有空間は、家具などを模様替えすることによって、互いの視線を気にせず過ごせるように工夫している。米寿を迎えられた利用者を祝って、壁に花嫁衣裳と留袖がディスプレイされ、祝いの気持が伝わる華やかな雰囲気である。洗面所の鏡も、混乱される利用者のためにカーテンで隠せるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は夫々の居室に馴染みの筆筒やテレビ、時計、鏡台、キーボード、椅子、テーブル、書籍を持ち込み、お花や写真を飾り、自分の居室として過ごし易い空間となっている。目の不自由な利用者の対応は安全面を配慮し、居室に物を置かないようにしている。		

※  は、重点項目。